

高岡古城公園指定150周年・国史跡指定10周年記念 特別展「高岡古城公園の150年」 出品目録
〔会期：令和7年(2025)7月26日(土)～10月5日(日)〕

加賀前田家2代当主・前田利長は、慶長14年(1609)高岡城を築城し、城下町を開きました。利長の死(1614年)の翌年に城は廃城となりますが、3代利常の城下町から商工業の町へ転換する再興政策により、城の水堀や郭が良好に保存され、高岡城跡は破壊の危機を免れました。明治初期にも城跡払下げの危機がありましたが、現在の高岡市長に相当する職にあった服部嘉十郎(1845～80)ら有志は、落札者たちを説得し、公園指定の請願書を新川県（現・富山県）に提出しました。明治8年(1875)7月4日、城跡は公園に指定されました。近年では古城公園の城跡としての価値と魅力を高めるため、繁茂した樹木を伐採し、城の遺構を見えやすくする整備が進められています。

令和7年(2025)は高岡古城公園の創設150年、高岡城跡が国史跡となって10年とそれぞれ節目の年にあたります。本展では当館収蔵の高岡古城公園関係の絵図・地図を中心に展示・紹介します。最後に、本展開催にあたりご所蔵資料を多数ご出品いただきました関係各位の皆様へ厚く感謝申し上げます。

No.	資料名称	年 代	点数	備 考	所蔵先
1	前田利長書状（あわち宛）〔写真〕	〔慶長14年(1609)カ〕 4月12日付	1	前田利長から小塚淡路秀正（初代高岡町奉行／7,000石）宛。木町の町立てや屋敷割りを指示した書状	当館（原本・木町神社蔵）
2	徳川秀忠書状（前田利長宛）	〔慶長14年(1609)カ〕 5月1日付	1	江戸幕府2代将軍徳川秀忠から「越中中納言」（前田利長）宛。本資料は『加賀藩史料』等に掲載がなく新発見史料とみられる。築城の経緯を考えるうえでも貴重な史料	当館
3	前田利長書状（神尾之直宛）〔複製〕	〔慶長14年(1609)〕 9月18日付	1	入城の5日後に二の丸の門と隅櫓2棟の増築を指示している文書	当館（原本・(公財)前田育徳会蔵）
4	高岡御城景台之絵図	慶長17年(1612)8月写	1	紙本彩色。前田利長の高岡入城の3年後に写された最古の城絵図。しかし、本丸と梅林（小竹藪）を結ぶ地点には「貫土橋」、本丸北隅には「御材木御蔵」などの記述もある	高岡市立中央図書館
5	越中高岡古城図「大図」	江戸期	1	紙本彩色。本図には黄色で土塁が描かれる。また鍛冶丸と明丸間の堀（枒形堀)中に湧水点を示すと思われる箇所（「井」に丸印）が3つ記される。石川県指定文化財「加越能文庫」	金沢市立玉川図書館
6	高岡城古図	江戸後期	1	紙本墨画。本図の来歴は不明だが、高岡町奉行・小堀金五右衛門政布（在職：1842～53年）が提出した系統の絵図	高岡市立中央図書館
7	『射水郡分記録等抜書』	江戸中期	1	射水郡関係の様々な記録。塚本家は中川村在住の十村・南家の手代。「高岡御城景台之絵図」と内容が多く共通している	塚本幸史氏
8	『関ノ観音寺由緒』	天保5年(1834)	1	当時の総持寺住職22世・在田が新城地の地鎮祭を行ったことなどが記載	高岡市立中央図書館
9	『瑞龍院様高岡ニ御築城ノ件』	明治期	1	利長（瑞龍院）没後、廃城となった後の高岡城跡内の様子を記す	高岡市立中央図書館
10	高岡城跡落札区分図（写）	昭和初期（原図は明治5年(1872)頃）	1	紙本彩色。本図は落札地所をさらに区分した絵図の写しと考えられる。落札者ごとに66名義（のべ157人）、84区画に区分けされているが、実際に開墾はされなかったといわれる。合計面積は8,724坪（実際は8,815坪）	高岡市
11	「太政官布達（正院達）第十六号」〔複写〕	明治6年(1873)1月15日	1	欧風都市の建設、遊観所の安堵、封建時代の跡地処理を目的に、全国各府県に公園の制定を認めた法令	国立国会図書館
12	新川県下第十八大区越中国射水郡高岡定塚町并二旧官林地古城跡内散地子野役ニ銭場地引絵図（写）	明治6年(1873)11月	1	高岡城跡内の各部の詳細が記された測量図。『高岡町見取図』（「官上見取絵図／第十八大区（井上二十郎写）」）のうち。金沢市立玉川図書館近世史料館にも同じものがある	高岡市立中央図書館
13	公園地所四隣各村境界支分間数帳	明治8年(1875)9月	1	高岡城跡が明治8年に公園指定された後の同年10月3日、高岡町と周辺の村々がその境界線を実測して取り決めた際の添付資料	当館
14	高岡古城蹟公園境界実測絵図	明治8年(1875)10月3日	1	明治8年7月4日に正式に「高岡公園」となったのをうけて、高岡町及び周辺の村々（湊分・下関村・中川村）と第16・17大区との境界を実測して取り決めされた絵図	高岡市立中央図書館
15	高岡古城跡見取絵図	明治初期頃	1	本丸東北辺中央に、貫土橋橋台石垣から北西へ連なる石垣の表現がみられる	金沢市立玉川図書館
16	高岡公園指定請願書（『公園之義ニ付願』）（案）	明治7年(1874)7月	1	明治6年「太政官布告第16号」を受け、第17大区々長(高岡市長相当職)・服部嘉十郎らが同5年の払い下げを取り消し、新川県権令（富山県知事相当職）・山田秀典に提出した書類。本文に続き、長文の「景況取調書」がある。	当館
17	天野屋（服部家）由来書	天保2年(1831)写	1	服部家（屋号・天野屋）初代甚吉から16代までの家系図。公園指定に尽力した服部嘉十郎（元善／1845～80）は13代である	当館（長谷川美紀子氏・青木芙二子氏寄贈）
18	写真「服部嘉十郎先生頌徳碑」	昭和30年(1955)	1	公園指定に尽力した第17大区々長・服部嘉十郎の功績を讃え、公園指定80周年にあたる同年、中の島に建立された	当館
19	写真「越中国高岡国幣中社射水神社ノ図」（複写）	—	1	遷座直後の同神社新拝殿と装束姿の神職が写される。明治33年に焼失する以前の貴重な写真。原版は宮内庁書陵部所蔵	射水神社
20	国幣中社射水神社 平面図	—	1	明治8年9月、同神社が二上山麓から公園内へ遷座された後の建物の規模や位置が確認できる平面図	射水神社

No.	資料名称	年 代	点数	備 考	所蔵先
21	国幣中社射水神社正面立面図・側面立面図	明治7年(1874)	2	二上山麓から公園内へ遷座される前年に描かれた旧本殿等の正面・側面立面図。明治8年の遷座当時の様子がわかる貴重な資料	射水神社
22	『国幣中社射水神社明細図書』のうち「本殿建築年度及由緒」	明治36年(1903)6月	1	明治33年の大火で焼失した同神社の社殿（旧本殿）が、官費ではなく射水・砺波・婦負・新川4郡の民費で造営されたことがわかる資料	射水神社
23	富山県知事李家隆介書簡（射水神社宮司・保科保宛）	〔明治36年(1903)〕 4月15日付	1	富山県知事・李家隆介から同神社宮司・保科保宛。明治35年の「北日本大冷害」による稲熱病の被害を鎮めるため、同神社へ臨時祈年祭の執行を依頼するもの。同神社所蔵『公文類集』（臨時祭）より	射水神社
24	射水神社 臨時祈年祭御神札版木「射水神社祈年祭大麻」	—	2	明治36年5月の臨時祈年祭執行にあわせて特別奉製された祈年祭大麻（神札）の版木と版紙	射水神社
25	渋沢栄一筆 社号額「射水神社」	大正13年(1924)	1	“近代日本資本主義の父”といわれた渋沢栄一が同神社の遷座50年にあわせて揮毫・奉納した社号額	射水神社
26	『公文類集』、『社殿及工作物・宝物・貴重品・土地台帳』	—	6	同神社所蔵の公文書綴、宝物台帳など	射水神社
27	越中国射水郡 高岡定塚町地引絵図（複写）	明治期	1	官有地、水堀、土塁などが色分けされた地引絵図。明治8年に完成し、清書は県に提出された	当館
28	公園図	明治34年(1901)	1	本丸に射水神社、二の丸に裁判所、鍛冶丸（字升形）に射水郡役所、明丸に高岡市有地が描かれた絵図。中の島造成のための高岡市の用地取得が明治39年であることを示す加筆あり	当館
29	公園設計の義につき伺書（複写）	明治36年(1903)4月2日	1	高岡市農商務係書記・高木太八郎が、高岡公園設計のため、京都の作庭家・小川治兵衛を呼び寄せてもよいかとの伺い書。『明治三十六年四月 高岡公園一件綴 高岡市役所』の内	当館
30	公園入口左側石積に付太田小平雇用伺書	明治36年(1903)7月4日	1	公園入口左側（場所不明）の石積について金沢の作庭人・太田小平を雇って施工してもよいかとの伺い書。『明治三十六年四月 高岡公園一件綴 高岡市役所』の内	当館
31	公園看守人夜間巡視用提灯注文伺書	明治36年(1903)9月11日	1	公園看守人の夜間巡視のための提灯を55銭で本市白銀町の佐野勝太郎へ注文してよいかとの伺い書。『明治三十六年四月 高岡公園一件綴 高岡市役所』の内	当館
32	高岡公園地内各種採取願、払下願（複写）	明治37年～大正2年 (1904～13)	3	蓮根採取願、蓴菜採取願、梅の実払下願。『明治三十七～四十年 高岡公園一件 第三号 高岡市役所農商務係』の内	当館
33	写真「造成される中の島」	明治40年(1907)頃	1	中の島は市が明治42年の皇太子（のちの大正天皇）行啓の前に、湊町深田地内の民有地（畑）1,365坪を購入して公園に編入し造成された	当館
34	絵葉書「高岡公園搦手口通」（複写）	〔発行〕明治40～大正7年(1907～18)頃	1	公園搦手口付近の様子	個人蔵
35	絵葉書「高岡公園御本丸入口ノ藤」（複写）	〔発行〕明治40～大正7年(1907～18)頃	1	公園本丸入口付近の藤の花を見ながら、人々が行き交う様子	個人蔵
36	絵葉書「高岡古城公園」（複写）	明治40～大正6年(1908～17)頃	1	古城公園二の丸－本丸間の土橋石垣がみられる	当館
37	秋季運動会開催に付本丸広場使用許可願	明治41年(1908)10月3日	1	市立高岡商業学校長・倉西松次郎から高岡市長・松島喜五郎宛。秋季運動会開催のため、本丸の使用許可を願い出ている文書。『明治三十七～四十年 高岡公園一件 第三号 高岡市役所農商務係』の内	当館
38	写真「越中国高岡商業学校運動会」（富山県各学校選手競争）	—	1	本丸広場で行われている運動会の様子。印刷物	当館
39	高岡市 明治四十二年事務報告「行啓事務」	明治42年(1909)	1	明治42年の皇太子行啓の準備や当日の様子などを記した市公文書。『自明治三十八年至大正二年事務報告及財産表 高岡市役所』の内	高岡市
40	高岡公園境界調査費・同改修計画費	明治42年(1909)4月12日	1	皇太子行啓のための高岡公園整備にかかる予算が記載。公園調査費に85円65銭、公園改修計画費として1,000円計上されている。『明治三十八年一月以降事務報告綴』『四十二年度予算編成ニ関スル回答』より	高岡市
41	絵葉書「高岡公園（其六）船見山御慶事紀年松」（複写）	〔発行〕明治42～大正7年(1909～18)頃	1	現在の本丸北隅辺りを写したもの。当時この高まりは、「船見山」とよばれていたらしいことがわかる。高岡学海堂発行	当館
42	写真「高岡御車山 皇太子殿下台覧之光景」	明治42年(1909)10月2日	1	皇太子奉迎式典は10月2日本丸で行われた。本丸北の御野立所（のち本丸北隅に石碑建立）に入られ、御車山7基、児童の手旗信号体操などを約40分間ご覧になった後、桜馬場の御座所に移られた	高岡市
43	写真「皇太子殿下行啓の児童手旗体操」	明治42年(1909)10月2日	1	明治42年の皇太子行啓に際して、本丸で市内の小学生が整列し、手旗体操が行われた	高岡市
44	絵葉書「明治四十二年北陸行啓御野立所（高岡公園）」（複写）	〔発行〕明治42～大正7年(1909～18)頃	1	明治42年10月2日に皇太子殿下が高岡古城公園に行啓した際、本丸北に設置された「御野立所」（休憩所）の写真	当館
45	絵葉書「高岡公園皇太子殿下行啓御野立所」（複写）	〔発行〕明治42～大正7年(1909～18)頃	1	皇太子殿下が高岡古城公園に行啓した際、本丸北隅に設置された「御野立所」（休憩所）の跡。高岡・棚田書房発行	当館
46	高岡公園改良設計図	明治44年(1911)	1	高岡市が近代公園の先駆者・長岡安平（1842～1925。長崎県出身）に依頼した高岡公園の改良設計図	当館

No.	資料名称	年 代	点数	備 考	所蔵先
47	高岡古城公園図絵	明治44年(1911)調整	1	公園内の建物と樹木、本丸には射水神社が描かれる	当館
48	高岡公園設計図	明治後期	1	公園改修設計図の一つ。本丸との間の堀沿いには山吹の植樹が記され、本丸には滝を備えた610坪に及ぶ池を造成する計画もあったことが本資料から伺えるが、この計画は実行されなかった	当館
49	「高岡公園字小竹藪下タ新設濠地続キ土地堀割等土砂運搬布均シ工事 仕様設計書」	明治後期	1	明治42年の皇太子行啓の前に同40年に行われた中の島造成工事の設計書。中の島造成計画図も添付。『明治三十七～四十年度 高岡公園一件 第三号 高岡市役所農商務係』の内	当館
50	高岡公園建造物参考図	明治末期	2	高岡市が長岡安平に高岡公園の改良設計を依頼した際の公園各所のイメージ図。5冊（46点）の内	当館
51	高岡公園無償使用願	大正3年(1914)4月	1	自由民権運動の先覚者・稲垣示（1849～1902。現・射水市棚田出身）の銅像建設にかかる公園無償使用願。堀二作から高岡市長・鳥山敬二郎宛。『大正二年以降 市公園綴 農商務係』の内	当館
52	高岡市 大正三年事務報告「皇太后陛下崩御」	大正3年(1914)	1	昭憲皇太后（明治天皇后）崩御による大喪儀が執行されるにあたり、小竹藪で一般市民のための遙拝式が行われたことなどが記載。『大正二年以降大正十五年迄 事務報告及財産表 庶務課』の内	高岡市
53	相撲場使用願	大正14年(1925)8月5日	1	高岡片原中島町の萩下太丞から高岡市長・上埜安太郎宛。公園梅林（現・三の丸）内の相撲場を、無料で6年間使用させてほしいと願ひ出ている文書。『昭和三年四月改 公園使用者台帳 高岡市役所』の内	当館
54	写真「水堀に生い茂る蓮と駐春橋」	大正期	1	水堀にうっそうと生い茂る蓮の写真	当館
55	写真「公園水堀でボートに乗って楽しむ人々」	大正期	1	人々が水堀でのボート遊びを楽しむ様子	高岡市
56	吉野新平（文山）寄進写真「射水神社『神馬像』」	昭和4年(1929)	1	高岡市片原町の薬剤師・吉野新平（文山）の喜寿祝いに、子供ら一族が寄進した射水神社の神馬像の写真	吉野哲郎氏
57	高岡公園堀に浮舟営業に付許可申請書	昭和11年(1936)3月19日	1	高岡市新横町の増田新作から高岡市長・堀豊宛。公園観桜客の遊覧のため、浮舟（ボート）営業について許可してほしいと願ひ出ている文書。『昭和三年四月改 公園使用者台帳 高岡市役所』の内	当館
58	銅像建設敷地無償貸付願	昭和11年(1936)4月14日	1	高岡相撲協会・井波義兵衛ら4名から高岡市長・堀豊宛。現射水市出身の彫刻家・長谷川義起の相撲原型及び相撲労作者の功労碑建設のため、無償で梅林（現・三の丸）地内の敷地を貸付けてほしいと願ひ出る文書。『昭和三年四月改 公園使用者台帳 高岡市役所』の内	当館
59	高岡公園地内使用許可願	昭和11年(1936)9月24日	1	高岡市横田町の郷土史家・飛見丈繁から高岡市長・堀豊宛。本市木町出身の政治家で漢詩人・書家の大橋弘（号・二水）による前田利長顕彰詩碑建立のため、本丸内の射水神社南隅を使用したいと願ひ出る文書。認可されたが、本丸西隅に現存している。『昭和三年四月改 公園使用者台帳 高岡市役所』の内	当館
60	「高岡公園地積調書」及び「高岡公園地積図・官民有地区別図」	昭和11年(1936)9月	1	高岡公園の地積調書と官民有地が色分けされた地積図。地積調書には地番・反別（面積）・所有者などが記載。『昭和十一年九月 高岡公園調査ニ関スル件 都市計画課』の内	富山県公文書館提供
61	高岡公園現況図	昭和23～25年(1948～50)頃	1	昭和26年の高岡産業博覧会に向けての改修が行われる前の公園の様子がよくわかる地図。本丸に野球場、二の丸にバレーボールコート4面、三の丸には相撲場とバスケットコート2面、明丸に武徳殿（柔剣道場）とテニスコート4面などがみられるが、今はいずれも失われている	当館
62	高岡公園実測平面図	昭和20年代後半～30年代後半	1	国・市・民有地別に色分けされた実測平面図。建物の坪数が記されている。本丸には野球場と射水神社、三の丸は相撲場と動物園、明丸には広場、鍛冶丸は美術館、二の丸には図書館と公会堂がある	当館
63	高岡本丸野球場建設計画図	昭和22年(1947)	1	昭和22年、本丸に造成された球場建設平面図。各所が色分けされており、球場内の規模や詳細な数値が赤色で記入されている	当館
64	写真「本丸球場（市営野球場）」	昭和25年(1950)	1	本丸野球場の造成は昭和22年である。その後同48年6月、城光寺に市営野球場が設けられ、本丸野球場は使われなくなった	当館
65	『高岡公園整備計画』より「高岡市高岡公園改良平面図」	昭和25年(1950)	1	公園整備を目的に市がまとめた計画書に付属した改良平面図。これによると三の丸には大弓場、小竹藪には温泉割烹店、鍛冶丸には小運動場などが計画されていたようだが、実現はされなかったとみられる	高岡市立中央図書館
66	高岡産業博覧会 趣意書・開催要綱（複写）	—	1	昭和26年の高岡産業博覧会開催に伴う趣意書、開催要綱がまとめられたもの	当館
67	写真「建設中の美術館」	昭和25～26年(1950～51)	1	昭和26年の高岡産業博覧会の恒久建築物で、建設途中の美術館パビリオン（現・当館常設展示棟）。博覧会終了後は市立美術館となる（平成6年中川へ移転）	当館
68	高岡産業博覧会特別ポスター（複写）	昭和26年(1951)	2	現・射水市三ヶ出身の日本画家・郷倉千鶴(1892～1975)によるものと、東京出身の日本画家・森戸国次(1904～91)によるもの	当館
69	高岡産業博覧会 会場案内・リーフレット	昭和26年(1951)	3	昭和26年4月5日から5月25日まで古城公園を会場に行われた高岡産業博覧会の会場案内・リーフレット。園内には23のパビリオンが建設され、本丸に設置された小牧ダムの模型、テレビジョン館、「ウォーターシュート」などが人気を集めた	当館

No.	資料名称	年 代	点数	備 考	所蔵先
70	高岡産業博覧会 前売入場券	昭和26年(1951)	1	福引抽籤会に参加できる番号付きの入場券	当館
71	高岡産業博覧会 各種記念品	昭和26年(1951)	5	高岡大仏座像、小壺、盃、タバコ「光」	当館
72	写真「高岡産業博覧会場正面入口」	昭和26年(1951)	1	高岡産業博覧会場の正面入口（大手口）で並ぶ人々	高岡市
73	写真「本丸にあった小牧ダムの大パノラマ（模型）」（複写）	昭和26年(1951)	1	本丸に作られた小牧ダムの模型。『高岡産業博覧会誌』（高岡産業博覧会事務局、昭和27年）より	当館
74	写真「迎賓館」	昭和26年(1951)	1	高岡産業博覧会の恒久建築物の一つ。博覧会終了後は市公会堂となる	当館
75	公会堂・図書館平面図	昭和26年(1951)	1	市公会堂は昭和26年の高岡産業博覧会の迎賓館として建設。同38年の豪雪で損壊後、同41年に市民会館となるも、その後施設老朽化のため建物は解体された。図書館は明治40年坂下町に私立高岡図書館が設立、大正14年には公園二の丸に、平成16年には高岡駅前のウイング・ウイング高岡内へ移転した	当館
76	写真「建設中の高岡市民体育館」	昭和35年(1960)	1	古城公園三の丸の播鉢形露天相撲場跡地に建設中の市民体育館の写真	当館
77	高岡市民体育館 建設記念絵皿	昭和35年(1960)	1	昭和35年11月の高岡市民体育館建設の折に製作された記念絵皿。市民体育館（現・東洋通信スポーツセンター）は、三の丸の播鉢形露天相撲場跡地に建設された。直径66mの円形ドーム型で客席は2,200人（現・2,000人）	当館
78	動物園移動計画図	昭和35年(1960)頃	1	動物園は昭和26年の高岡産業博覧会を機に三の丸（現・東洋通信スポーツセンター向い）に建設、同35年に現在地（明丸）に移設された	当館
79	写真「三の丸にあった相撲場」	昭和26～33年(1951～58) 頃	1	相撲場は大正11年、高岡市片原町の料亭「萩下楼」の主人・萩下太丞が私財を投じ、公園三の丸に直径80m、15,000人収容の播鉢形露天相撲場を造成した	高岡市
80	写真「空からみた高岡古城公園」	昭和26～35年(1951～60)頃	1	写真手前右側の二の丸には公会堂と図書館、本丸には野球場、三の丸には播鉢型の相撲場がある	当館
81	写真「空からみた高岡古城公園」	昭和35～38年(1960～63)頃	1	写真右手奥の三の丸には体育館、明丸には動物園、二の丸には公会堂と図書館、本丸には野球場がある	当館
82	高岡市民会館 建設記念絵皿	昭和41年(1966)	1	昭和41年の高岡市民会館建設の折に製作された記念絵皿。市民会館の前身は、同26年の高岡産業博覧会開催の折に公園二の丸に建設された迎賓館（博覧会終了後は市公会堂）	当館
83	高岡公園平面図	昭和43～47年(1968～72)頃	1	昭和43～同47年度にかけて、年度毎の公園整備にかかる補助事業費及び市事業費などについて色分けされた平面図	当館
84	写真「三の丸から本丸を望む」（作業前）	〔撮影年〕 令和5年(2023)6月	1	樹木伐採前の様子を写した写真	高岡市
85	写真「本丸・三の丸での伐採作業」	〔撮影年〕 令和5年(2023)11月	1	景観再生プロジェクトによる樹木伐採作業中の写真	高岡市
86	写真「三の丸から本丸を望む」（作業後）	〔撮影年〕 令和7年(2025)5月	1	樹木伐採作業後の様子を写した写真	高岡市
87	写真「本丸土橋を望む」（作業前）	〔撮影年〕 令和6年(2024)1月	1	樹木伐採前の様子を写した写真	高岡市
88	写真「本丸土橋付近での伐採作業」	〔撮影年〕 令和6年(2024)2月	1	景観再生プロジェクトによる樹木伐採作業中の写真	高岡市
89	写真「本丸土橋を望む」（作業後）	〔撮影年〕 令和7年(2025)5月	1	樹木伐採作業後の様子を写した写真	高岡市
90	高岡古城公園 景観再生プロジェクト空撮映像	〔撮影年〕 令和7年(2025)6月	1		高岡市

※資料保存のため一部展示替えをすることがあります。本リストの内容は実際の展示と異なる場合があります。

計90件107点